

学校経営方針

1 学校経営方針の背景

(1) 育成すべき資質・能力

学習指導要領の改訂によって、学校は「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、「資質・能力」の育成を目指すこととなります。昨年度、当校は中学生・保護者・地域・教職員でグループワークを行い、育成すべき資質・能力を明確にしました。さらに、教職員でカリキュラム・デザインに取り組み、全体計画となるグランドデザインを完成させました。

今年度、グランドデザインを単元や授業の構成に落とし込み、授業実践を積み重ねていくこととなります。校内研修の視点は「主体的・対話的で深い学びの実現」であり、指導主事招聘で指導を仰ぎながら推進していきます。

(2) 学校の経営戦略の柱

教科横断的な視点で教育内容を整理し、「学びの地図」となる単元配列表を今年度中に作成します。教育内容を結び付ける視点の一つは「海と人との共生」です。海洋教育のコンセプトである「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」から粟島を学習するとともに、郷土愛の育成を図ります。

ユネスコスクールに加盟している当校が、SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」の取組の一環として海洋教育を行うことは意義深く、2021年度のカリキュラムや単元の開発を進めていきます。この取組は、地域の特色や住民の願いに合致するものであり、学習指導要領の趣旨やUNESCO・IOCの「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」宣言の動向にそうものでもあります。

(3) 村の教育の重点

村が行う「しおかぜ留学制度」により、今年度の児童生徒数は31名（内20名が留学生）となります。学校が一段と活気づきます。子供の間関係づくり能力の育成だけでなく、学習面においても学習形態の工夫や深い学びの実現等、多くの教育効果が期待できます。また、留学生の多くは、命の教育の中核となる牧場活動に興味を抱き来島します。中学校卒業後、馬に関わる進路を選択する生徒もいます。

しかし、離島という閉鎖的な空間であることや一日中同じメンバーで生活する環境におかれる留学生は、不安やストレスを抱えやすい傾向にあります。生徒指導上の諸問題が数年続いており、その解消や防止が喫緊の課題です。

2 ミッション（社会的な使命・存在意義）

(1) 学校教育目標を達成する

- ア 知・徳・体のバランスのとれた育成
- イ 義務教育終了段階での自立を目指した指導

(2) 地域と学校の双方向の連携・協働による子供の学びと地域づくりを推進する

- ア 地域の伝統・文化の継承、海と人との共生や地域の創生の学び
- イ 郷土愛の育成と学校を核とした地域づくり

3 ビジョン

(1) 目指す学校像 「子供・保護者・教師の夢や希望にあふれる学校づくり」

- ア 学ぶ楽しさや分かる喜び、心や体の成長が実感できる学校
- イ 保護者・地域から信頼され、地域とともに歩む学校
- ウ 教師が情熱と使命感をもち、教育活動を進める学校
- エ 教育上の環境が整い、安全・安心に生活できる学校

(2) 目指す子供像 「何事にも主体的に取り組む子供の育成」

- ア 育成すべき資質・能力を身に付けた子供
- イ 絆づくりを進め、豊かな人間性・社会性を身に付けた子供
- ウ 健康で安全に生活し、体力の向上に取り組む子供
- エ 海に囲まれた栗島を深く理解し、ふるさと栗島を誇りに思う子供

(3) 目指す教職員像 「率先垂範・凡事徹底・プラスαを目指す教職員」

- ア 細やかに見とり、子供の心に寄り添い、共に活動する教職員
- イ 主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導の充実を図る教職員
- ウ 子供の心身の健康づくりや居場所づくり、環境整備に努める教職員
- エ 保護者や地域と信頼関係で繋がり、地域の特色を理解していかす教職員

4 学校教育目標

- ・自ら進んで学習する子ども (知)
- ・思いやりを持ち助け合う子ども (徳)
- ・めあてを持って体を鍛える子ども (体)

5 実践事項

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現（重点１）

- ア 課題に対して見通しをもち、自ら解決に向かうとともに、その学びを振り返り次につなげる学習を展開する。
- イ 異なる多様な他者と対話する子供の考えを、広げ深める授業を構成する。
- ウ 見方・考え方を働かせ、知識を関連付けて深く理解したり、情報の精査や自らの思いに基づいて新たな考えを創造したりする学びを推進する。
- エ 海と海洋資源を守り、持続可能な開発を目指す教育を展開する。

(2) 社会性の育成（重点２）

- ア 子供主体のいじめ見逃しゼロスクールを展開し、いじめをしない、見逃さない、許さない心の育成を図る。

- イ 発達段階に応じた社会的スキルの育成を図る。
- ウ 豊かな体験活動・異年齢交流の充実を図る。
- エ 考え、議論する道徳や人権教育、同和教育の授業の充実を図る。

(3) 体力の向上や望ましい生活習慣の定着

- ア 保健体育の授業や部活動を中心に運動量を高める。
- イ 全員で運動に親しむスポーツDAYやのびのびタイムを工夫する。
- ウ 家庭と連携した食育や生活習慣改善の取組を実施する。

(4) 家庭や地域との連携の充実

- ア 地域資源・地域人材の活用を図り、新潟っ子プランを確実に実施する。
- イ 地域行事への参加や地域貢献活動の充実を図る。
- ウ 地域住民とのワークショップを通して、地域の課題に取り組む。

(5) 専門家の活用や関係機関との緊密な連携

- ア 夢や希望を育む専門家による出前授業や交流活動を実施する。
- イ 共育センターや関係機関と連携し、情報や指導方法等を共有する。
- ウ 県「いじめの未然防止実践研究パイロット事業」を有効に活用する。

6 教師の基本的な姿勢 「教育は信頼関係の上に成り立つ」

(1) 個を伸ばす教育を実践する

- ア 一人一人を大切にし、子供の心の揺れや不安に即時対応する。
- イ 「できるようにになりたい」「わかるようにになりたい」という子供の願いを大切にする。
- ウ 生徒指導の3機能を生かした教育活動を行う。

(2) 「率先垂範」教育公務員としての誇りと自覚をもつ

- ア 時と場と目的に応じた行動がとれ、子供の行動模範となる。
- イ 適切な言葉遣い、身だしなみ、人としてのマナー等に配慮する。
- ウ 法令を遵守し、非違行為は決して起こさない。

(3) 全職員が協働の意識をもち、チームとなって組織的な対応をする

- ア 「報・連・相」と「確認」を徹底し、情報の共有化を図る。
(抱え込まない。悪い報告ほど早く。)
- イ スピードが誠意である。チームによる迅速・適切な初期対応を心掛ける。
- ウ 教師一人一人が自らの専門性を発揮し、連携・分担して教育活動を行う。

(4) 環境の整備・美化・安全管理を徹底する

- ア 日々の安全点検や清掃活動を通して、安心・安全な環境を作る。
- イ 環境の変化に気を配り、維持や美化に努める。
- ウ 危機管理マニュアルの見直し・改善を図り、周知徹底を図る。

(5) 「集中と選択」を実践し、自らの働き方を見直す

- ア 「子供のための活動」となっているかを考え、整理・統合・削減する。
- イ 「現状維持は衰退」新しいアイデアを考えて、積極的に取り組む。
- ウ 時間外勤務一月45時間以内、一年360時間以内を目指す。また、年休一年15日以上の取得を図る。